

# 平成25年度岡山県立記録資料館運営協議会 議事録（概要）

1 日 時 平成25年10月31日（木） 13:30～15:20

2 場 所 岡山県立記録資料館 研修室

3 出席者

（委員） 江見肇、奥田哲也、沢山美果子、妹尾壽子、中村誠（敬称略、50音順）

（事務局） 岡山県立記録資料館 定兼館長他

4 傍聴者 2人

5 議 題

(1) 平成24年度事業報告について [資料：こちらをクリック（PDF 1,970KB）](#)

(2) 平成25年度事業の現況等について [資料：こちらをクリック（PDF 550KB）](#)

(3) 開館10周年記念事業について [資料：こちらをクリック（PDF 101KB）](#)

6 議事

委員長により議事進行

(1) 平成24年度事業報告について

（委員） 去年の会議で、メールなどでの質問が来たときに、どのように返答するか、  
どういう態勢をとるかが課題ということだったが、現状ではどのようになっているのか教えてもらいたい。

（事務局） ホームページ上に、レファレンス（古文書等の目録や検索方法などに関する問い合わせへの対応）の質問例・回答例を設けるようにした。資料の取扱方法とか、古文書の読み方とかをホームページ上に展開した。レファレンスについては、質問の都度、回答している。今後もレファレンスのツールは増やしていきたいと思っている。

なお、事業報告では事項ごとの数値を述べただけですが、我々で自己分析しているところを少し説明させていただくと、24年度の利用者が23年度と比べて減少した要因としては、講座の応募者が多くて隣のきらめきプラザの会議室で開催したため、展示コーナーに立ち寄る人が減ったことが要因の一つと考えている。当館を会場に講座を実施した場合は、ほとんどの人が展示を見られる。ホームページの利用者の減少については、資料の検索可能データ数が常に増えていけば利用件数も増えると思うが、内容更新が少なかったことが要因の一つと考えている。今後は、資料収集や整理、インターネット公開など、バックヤードの仕事にも力を入れていかなければいけないと分析している。どのように対応するかは検討中である。

(委員) 記録資料館を利用される方は、どの年齢層が多いのか。

(事務局) 業務として利用される方もいるが、個人として利用される方は高年齢の方が多い。講座等の受講者も高年齢の方が多い。定年後を見据えて、定年間近の勤労者の方が利用している場合も見受けられ、このような方は、土・日の講座等を楽しみにされている。

(委員) 図書館に行くと、人にも会えるし書物にも出合える、勉強にもなり、生涯学習の場として良い。記録資料館は若いときは興味が無かったが、定年が近い年齢になった現在は、生涯学習の場として良い施設と思えるようになった。

(事務局) 県立図書館との連携は必要との思いがあり、図書館に記録資料館コーナーを設けているし、図書館の郷土資料コーナーの担当者には、始終、助言をしてもらっている。

(委員) 刊行物として紀要を発行しているが、最近では、発行機関が印刷物配布と同時に、機関リポジトリ（研究機関が生み出した研究成果を電子的に保存し、インターネット上で提供するシステム）という形で紀要のPDFを入手出来るようしているところもある。これは大変便利である。印刷配布が限られている記録資料館紀要なども読みたい人もいると思うので、ホームページ上からPDFによりダウンロード出来るようにしてはどうか。

(事務局) 刊行物のPDFは作成しているので、ホームページ上に掲載することは可能である。写真等は著作権の問題もあり、一概にすぐとは言えないが、紀要はページ数も多くないのでバックナンバーも含めてホームページへの掲載を検討する。

## (2) 平成25年度事業の現況等について

(事務局) 24年度に比べて、25年度は様々なことを実施していると思っただけだと思うが、当協議会の意見を参考にして実施しているところである。職員その他、ボランティアや同好会メンバーにも頑張ってもらっている。本日は、委員の皆様から、さらに工夫出来ることとか、効率的なことがあるのではないかとということも含めて、御意見を頂きたい。

(委員) 努力をさせていただいていることはよく分かる。

(委員) これだけの事業をするのは、物すごく大変だろうと思う。2点教えてもらいたい。月別の利用状況を見ると7月に一気に増えているが、その要因を分析出来れば、どのようにすれば利用が増えるかというヒントになるかと思う。なぜ、ここだけ増えているのか教えてもらいたい。また、記録資料セミナーの受講者が、例年、後半に減少しているとのことだが、減少する講座もあるし減少しない講座もあるので、その要因をどのように分析しているのか教えてもらいたい。

(事務局) 公文書の利用点数には公聴広報課からの移管写真を含んでおり、利用が多かった月は出版掲載を目的とした写真利用が集中したことによる。古文書の利用点数が7月・8月に多かったのは、学生や研究者が集中的に利用したことが増加要因の一つと考える。なお、利用人数については変動は大きくない。また、記録資料セミナーについては、今年度は5回のうち1回目と2回目については講師のファンがいて、いわゆる戦国歴女が県外から幾人か参加された。関心のある回だけでも聞きたいということで応募があったことが要因と考えられる。

(委員) 24年度の利用状況を見ると県外からの利用者が多いが、どのような理由によるのか。研究テーマに沿った資料を求めてなのか、大学生の帰省によるものか、それとも観光や視察ツアーなどに絡めて利用しているのか。

(事務局) 当館を県民の施設として県民に利用してもらいたいと思っているが、高度な内容の資料も保管しているので、それらを利用する県外の研究者等が専門機関として利用しているともいえる。専門機関ということで県民に敬遠されるのは困るが、利用者のすそ野が県外にまで広がっている方向は良いことと思っている。

(委員) ワーキングチームの活動で、中・高校生等対象の体験講座メニューづくりとあるが、実際にメニューを作成した後に、中学・高校で講座を開催していくのか。

(事務局) ワーキングチームで検討したと報告したのではあるが、これから業務につなげていかないと意味がないので、業務ベースでの取組方法と、学校に向けての周知方法について検討を進めていきたいと考えている。校外学習として、繰り返し来館する学校もある。来館すれば当館の魅力を伝えられると思うので、まず来てもらうきっかけづくりになるようなメニューを作成し、学校へ周知していき

たい。

年内には方向性を決め、現在検討中の来年度事業計画に組み込んでいきたいと考えている。なお、学校の先生方にも協力いただきたいと思っており、アクションを起こしているところである。まずは先生方の研修に入れてもらえないだろうかという思いがあり、岡山市教育研究研修センターとか県総合教育センター等に話を持ち掛けている段階である。ワーキングチームの議論を受け、今後の展開を考えているところである。

(委員) 教員対象の研修を考えているのか。

(事務局) そのように考えている。

(委員) 自分が高校の教員であれば、自分が求めている内容のものがあれば良いと思う。高校社会科の先生を対象にアンケートを行い、どのようなものを提供すれば学習に役に立ちますかとか、出前授業でどのようなことをして欲しいですかとかを聞いてみてはどうか。生徒が来館するというのは難しいと思う。

中学・高校の社会科では、岡山県のことだけを勉強するわけではないので、来年の大河ドラマで黒田官兵衛が放送されるが、歴史に興味を持つ子供に育てるということならそれでも良いと思う。

(事務局) 出前授業などを、学校だけに限らず、公民館など生涯学習施設で広報してもらおうことも考えていきたい。

(委員) 一般市民にとって古文書は難しいので、分かりやすい講座があったら良い。

(委員) ワーキングチームで、中・高校生を対象ということで検討したのは良いと思う。今年9月、壊滅的被害を受けた陸前高田市立博物館で、お一人だけ難を免れた学芸員の方のお話を聞く機会があったが、その方は、高校生のときから博物館に出入りをして興味を持って学芸員になったということであった。また震災の後、やはり博物館に出入りしていた高校生が復興に努力したいということで資料保全の協力をしたという。このように高校生のときから関わり現物に触れることは生徒にとって良い体験になるという話が印象的であった。

ところで県立岡山城東高校では、古文書を見せ、実際に触らせるという講義をしているが、現物の持つ力は大きく、とても感激したという報告を聞いた。記録資料館は貴重な資料をたくさん保存しているので、高校生のときから資料に触れ

るようなことを行えば、記録資料館の今後にとって良いのではないかと思う。

(委員) 全国にある他の館で、どのような普及啓発活動を実施しているかを調査したことはあるか。

(事務局) 他館がどういうことを実施しているかについては興味があり、常にサーチしている。また会議や連絡協議会等に参加して、生の声を聞くようにもしている。どの館も苦勞しているようである。

### (3) 開館10周年記念事業について

(委員) なぜ人は昔の資料に触れるのだろうか、ボランティアの人数も多く、何度も講座に参加している人もいると思うが、昔のことだと言えばそれまでのことだが、なぜ大切に保管して、紐解いて、今後に残していくのか、それが記録資料館の在り方だと思う。それをキーワード、テーマにして、ポスターに載せて大々的に発信していけば、なるほどねと納得出来るのではなかろうか。

(事務局) 講座等の参加者にアンケートなどで聞いているが、人それぞれである。共通的なことでインパクトあることを何とか考え出したい。

(委員) 会場を一箇所にしてもらえると、参加しやすい。若い人は、知らないことばかりで、だんだん離れていく。「なるほど、行ってみよう」と思ってもらえるようなことをメインに記念事業を組み立てれば、おでんの串のように、一本筋が出来るのではないか。

(事務局) 公文書館法や公文書管理法では、歴史資料として重要な公文書とされており、ベースは国民共有の知的資源として重要なものということである。昨年頂いた意見を参考にポスターを作成して周知に努めているが、それ以上に新聞へ掲載される効果大きい。さらに、ラジオや地デジなども活用しており、それらを聞いたり見たりして来館される人もいる。インターネットやチラシを含め、様々な広報媒体を利用することが必要と考えている。記録資料の検索の仕方も、インターネットを利用する方法もあるが、印刷物での目録検索の方が良いという人もいる。レファレンスで職員と対話することにより新たな発見をする場合もある。

記録資料の中には、公文書の他、写真などもあり、当館の守備範囲が広がりすぎている状況にある。博物館、美術館、図書館とも役割分担しながら互いに協力しようということをやっているが、イベント等ではパイの取り合いということも

ある。

(委員) 百貨店のように、色々なものが1箇所があれば利用しやすい。

(事務局) 図書館等と公文書館をセットにしている県もある。三重県は博物館と公文書館が一緒に、福井県や奈良県は図書館と公文書館が一緒になっているが、当館は独立館なのでそれらと同じには考えられない。

(委員) 記念事業のイメージとしては、年間を通して実施するイメージか。

(事務局) そのように考えている。今年度は、すべての行事を美作国建国1300年事業の協賛とした。メインイベントとして、アーカイブズウィーク行事の中で、磯田道史先生という著名人の講演会を開催した。当館を知ってもらうためには地道な活動と同時に大きなイベントを開催することも必要と思った。開館から10年近くが経過し、地道に取り組んできたことにより、それなりのことは出来ていると思っている。

ところで、当館は公文書や古文書の収集を行っており、書類は増加の一方で、いずれ近いうちに書架が満杯になる。これは当館のこれからの在り方にも関連する検討課題である。さらに地域資料の保存のためには、当館だけでなく、市町村や公的機関と連携していくことが大切となっている。

そこで、記録資料を残していくことが大切なんだということを県民にもっと知ってもらうためのキャンペーンを考えたい。だから、10周年記念事業では当館のことだけではなく、県内で、記録資料を保存していくことが大切であるという気持ちを増やす契機になるようにしたい。これはマスコミの人にも、どんどん語ってもらいたいところである。さらに学校教育の中で、少年少女期に、資料が大事だということを伝えることで、記録資料を残す意識が高まる。

(委員) 記念事業としてどのような事業をするかと、館の在り方をどうするかは、相互に関連していると思うが、記念事業としてはどういう考え方をしているのか教えてもらいたい。

(委員) アーカイブズウィーク行事のアンケートを見ると、記録映像上映会や写真展は人気がある。分かりやすいですね。

(事務局) 分かりやすさは重要と思う。

(委員) どのような態勢で記念事業を進めていくのか。現在でも業務量が多く一杯一杯とのことであり、年間を通して実施するとなれば、記念事業に専属で関わるチームとか、知恵を出してくれる人など実行委員会形式にでもしないと無理なのではないのか。

(委員) 今のような展示方法ではなく、展示を見に来た人が何かを見つけていくとか、発表するとか、今までの概念を変えてみるような、思い切ったことも出来るのではないのか。資料の現物があるのだから、それらを上手く活用して、資料があるということが地域にとって大切なんだということが分かるような仕掛けが出来たら良いと思う。今のように展示を見た人に勝手に考えなさいではなくて、結論を導いていくような手法が出来たら面白いと思う。

(事務局) これまでの展示は、展示資料について丁寧に説明する方法をしてきたが、チャレンジングなことも検討したい。

(委員) 来館した人の興味や関心に応じて、こんなことがありますよとか。職員は大変だろうが、毎週土曜日に開催するとか。

(委員) この前、瀬戸大橋に関する航空写真展を見たが、撮影角度が凄いなと思った。瀬戸大橋を造るときに課題がある中で、なぜこの場所に造ったのかということ想像しながら見ていたら、島と島の距離が短いからだとか、岩盤が良いのだとか、自分なりに考えてみた。学芸員が参加者に問い掛けながら探し当てていくような方法、ミステリーツアーのようなものがあれば、ただ何となく見るよりは楽しいと思う。

(事務局) 展示する職員も資料を見ながら楽しみながらやっており、インパクトがある資料だから展示したいという思いになる。なお、当館の発信は県の意見ということにもなるので、その点に留意している。

(委員) 中・高校生を対象にテーマを提示して、グループでテーマについて調べて成果を出して応募しなさいといったコンテストなどを実施出来ればと思う。どういうテーマでどういう内容を提示すると高校生が出来るかは分からないが。

(委員) この会議に、高校の先生に参加してもらった方が良いのでは。

(事務局) 歴史資料を考察することが、中・高校生の姿と思う。歴史事実を暗記するだけでなく、考察するところまで持っていったら良いと思う。一発勝負ではない、時間をかけてやらなければならないと思っている。

(委員) 館の在り方について、ヒントになるような御意見がありますか。

(委員) 1年を通して事業を実施していく中で、例えば講演会で、問題意識を持ってもらうことを話題にしてシンポジウムをするのはどうか。本日の意見をヒントにして、館長のイメージで事業を進めれば良い。

(委員) 実行委員会という話もあったが、本庁の職員にメンバーに入ってもらったらどうか。

(委員) 外部の人を入れるのは効率が悪い。必要なときに意見をもらえば良い。

(委員) 外部の人に入ってもらうのは、かえって職員の負担が増える。

(委員) 以上で議事を終了する。

以 上